



肉用名古屋コーチンへのみりん粕給与技術を開発

—みりん粕の給与により、生産性と食味が向上します—

開発の背景・ニーズ

近年、飼料価格が高止まりの状況が長期に続き、養鶏経営を圧迫しています。その対策として、未利用資源を飼料として有効利用し、飼料費を低減することが必要となっています。また、愛知県のみりん生産量は全国第2位であり、その製造残さであるみりん粕も多く発生しています。

そこで、肉用名古屋コーチンへのみりん粕給与技術の開発について取り組みました。

成果の内容

みりん粕を配合飼料と同時に給与したところ、配合飼料のみの給与に比べ、増体量と飼料要求率に改善が見られたことから、みりん粕は嗜好性が良く、飼料価値も高いことがわかりました。また、鶏肉の官能評価を実施したところ、みりん粕を給与した鶏肉の方が食味性でも優れました。さらに、飼料費も削減することができ、収益の増加も期待できます。



供試したみりん粕

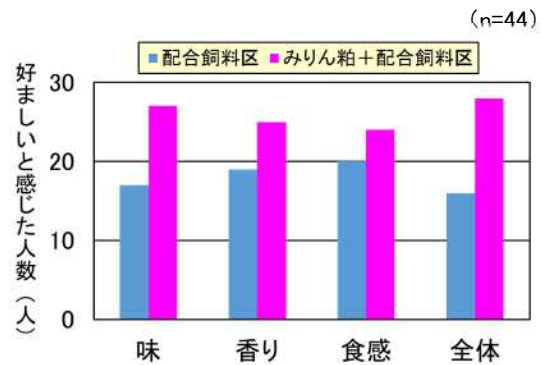


みりん粕の給与状況

みりん粕給与が生産性及び経済性に及ぼす影響

項目	配合飼料区	みりん粕+配合飼料区
増体量(g)	2049	2167
乾物摂取量	9311	9391
飼料要求率*(乾物当たり)	4.54	4.33
飼料費(円/羽)	479	447
粗利益(円/羽)	1049	1141

7~18週齢の間、雄の肉用名古屋コーチンを用いて、給与試験を実施
*飼料要求率は、飼料摂取量を増体量で割った値で、飼料利用効率の指標である。



みりん粕給与が鶏肉の官能評価に及ぼす影響

愛知県農業への貢献

みりん粕を肉用名古屋コーチンに給与することにより、生産性や食味の向上を図れるだけでなく、生産者の収益増加が期待できます。